

令和7年度 学校経営計画（その2）に基づく最終評価

【I-1】規範意識の向上、基本的生活習慣の確立 【評価B】

○ 昨年度、警察対応を含む生徒指導事案が多発した。本年度は、規範意識や授業規律の改善等を目的として、新学期初めに「黄金の三日間」と銘打って各課長、専門学科長、学年主任からの講話や指導を徹底し、生徒指導を重点的に行った。成果として、全校集会等学校行事での態度や生徒指導案件も減少し、落ち着いた学校生活を実践することできた。

○ 挨拶は、校内外から気持ちよい挨拶ができるお褒めの言葉を頂くことが多い。「立ち止まって先言後礼」も、運動部の生徒を中心に実行している。全ての生徒ができるよう今後も指導を継続したい。

○ 褒めの教育の推進について、学校生活上で生徒の些細な行動も見逃すことなく丁寧な指導を行うよう指導している。

生徒指導人数・件数

支援の必要な生徒（保護者要望）
R05: 18名/98名 16.3%
R06: 21名/96名 21.9%
R07: 30名/109名 27.5%

あっぱれカード発行枚数
R05: 602枚 発行
R06: 241枚 発行
R07: 124枚 発行

天晴賞
環境土木科 二年 赤木 隆斗 殿
あなたは今年度一年間において、強い気持ちと心遣いをもって、素晴らしい活躍をされたのをごに表彰いたします。

【I-2】部活動の活性化・効率化 【評価B】

○ 笠工ニュース、Instagram、笠工blogで、各部の活動・活躍の紹介を実施した。11月末に調査をした結果、同一の時期ではないが、部活動離れが進み、加入率がここ数年大幅に減少している。今後もより一層、各部の活動状況に関する情報発信と入部等の指導を継続する。

○ 今年度、ウエイトリフティング部からは全国高校総体、国民スポーツ大会に1名が出場した。バレー部は、高校総体、全国高校生バレー選手権大会に出場した。機械工作部は、高校生ものづくりコンテスト溶接作業部門中国地区大会に出場。電気工作部は、全国ソーラーコンテストで準優勝を果たした。土木研究部は、中国地区測量競技大会（水準測量）で優勝した。また、第18回コンクリート甲子園全国大会への出場が決まった。

○ 近年、部活動離れが進んでいるが、担任や専門学科と協力し、退部者や未入部者への指導・声掛けを継続して学校の活性化に努めていきたい。

部活動加入率
R05 79.4%
R06 70.4%
R07 72.4%

【I-3】基本的生活習慣の確立

【人材育成】
社会人としてのマナーや確かな職業観・勤労観を持ち、意欲的で我慢強さや責任感を身に付けた人材を育成する。

【本校の目指す姿】

【本校の使命・存在意義】
新学習指導要領の方向性を踏まえ、基礎学力の定着、専門的な知識や技能の向上を図りつつ、主体的・対話的で深い学びを重視する中で、STEAM教育や課題解決学習を展開することにより、思考力・判断力・表現力を育成する。これらを推進することで、将来を見据えた行動力があり、社会の変化に柔軟に対応できる創造力豊かな人材や地方創生を支える人材を育成することで、地域とともに発展する工業高校を目指す。
【キーワード：「地域で活躍できる“人財”の育成」】

【II-1】基礎学力の向上、学習環境の整備 【評価B】

○ 授業規律の確立は、「笠工授業5」を年度初めに全教室と体育館、実習室等に掲示し、徹底を図っている。今年度は新たに赴任した教員も多いことを踏まえ、文言の意味する内容の確認とすり合わせを年度当初に行い、共通理解の確認と指導の徹底を図った。

○ 年度初めに徹底しておく必要性から、1学期始業式やオリエンテーションで、学力向上委員会より、学ぶことの意義について講話を行った。

○ 基礎学力診断テストCゾーン以上の生徒数は4月の段階で、全ての学年で30%を割っている。家庭学習の習慣化指導、学習環境の整備、授業規律の保持などが急務である。新たに2年団では、朝学の内容を確認する小テストを独自に実施し、既習事項の確認や定着を図った。9月の基礎学力診断テストでは、学年全体として上昇傾向が見られており、引き続き学習習慣の構築に努めていきたい。

○ 相互授業見学の期間を例年より延長し、スキルの向上に努めた。参観後は参観シートを活用した授業者へのフィードバックを行い、授業者・参観者双方が授業改善に役立てられる仕組みづくりを行った。

朝学の取組(内容)
1年生一問題集(国語・数学)
2年生一問題集(国語・数学)、一般常識問題集
3年生-SPI問題集

家庭学習30分未満/日
年度 3年生 2年生 1年生
R04 58.9% 72.9% 44.2%
R05 63.4% 61.4% 49.5%
R06 74.4% 64.0% 52.6%
R07 69.2% 62.8% 58.6%

基礎学力テストCゾーン以上
年度 3年生 2年生 1年生
R04 43.1% 29.6% 28.1%
R05 27.2% 28.1% 28.6%
R06 16.3% 13.3% 25.5%
R07 15.2% 19.8% 23.4%

立腹姿勢 先言後礼

【II-2】高度な国家資格等への積極的な挑戦 【評価B】

○ 計算技術検定2級は、5名が合格した。普通科高校で学習する数学の力が必要となるレベルであり、今後も合格者数増加となるよう指導して行きたい。

○ 本年度から、県産業労働部の技能検定に係る補助金制度が復活した。建設業・製造業等の人手不足が深刻化しており、経産省や国土交通省の土木施工管理技士や電気工事士の受験資格等が緩和された。社会的評価が高い国家資格取得を継続的に、生徒の学習意欲の向上や進路指導の充実に役立てて行きたい。

2級土木施工管理技士(合格率)
R05 16名 → R06 17名 → R07 10名 (37%) (35%) (24%)

インフラ調査士補
R05 6名 → R06 8名 → R07 6名

危険物取扱者(乙種)
R05 27名 → R06 17名 → R07 7名

職業教育技術顕彰
R05 14名 → R06 20名 → R07 13名

工業教育技術顕彰
R05 16名 → R06 12名 → R07 13名

技能検定(3級)
機械検査作業
R05 9名 → R06 4名 → R07 1名 (後期受検有り)

電気系保全作業
R05 8名 → R06 1名 → R07 2名 (後期受検有り)

計算技術検定1級
R04 1名 → R05 0名 → R07 0名

計算技術検定2級
R05 6名 → R06 5名 → R07 4名

第1種電気工事士
R05 0名 → R06 1名 → R07 2名

第2種電気工事士
R05 11名 → R06 12名 → R07 16名

製図検定
R05 9名 → R06 7名 → R07 2名

基礎製図検定
R05 15名 → R06 11名 → R07 17名

岡山県産業労働部
おかもま未来の匠奨励賞 → R07 0名 ※過去に申請済みのため

【II-3】基礎学力の向上・学習習慣の確立

【学力向上】
基礎的な学力と教養を身に付けるとともに、豊かな専門的な知識や技術・技能を有する人材を育成する。

【II-4】資格取得の推進

生徒一人ひとりが大切にされ、笠工生としての誇りと自信を身に付けることのできる学校

【III-1】地域連携・学校間連携 【評価A】

○ ホームページ、ブログ、SNS等の更新では、部活動、授業や生徒の様子、校内の施設・設備等がわかるものを積極的に掲載し、本校の魅力発信に努めた。ブログの更新回数は、県立工業系高校では第1位である。本校を実際に見ていただく機会の確保に努め、オープンスクールの7・10月の2回実施したほか、中学校教職員対象の施設見学ならびに説明会を実施した。また、個別の学校見学にも対応している。

○ 中学校への出前授業は、笠岡市、井原市、浅口市の9校で実施した。専門学科の実習内容を体験してもらった授業を展開し、中学生、教職員ともに好評であった。笠岡市と連携して、親子ものづくり教室を開催。夏休みの宿題が完成して、参加した小学生保護者ともに好評であった。

○ 地域連携強化の一環として、笠岡市観光協会と連携協定を締結した。笠岡市商工観光課からの依頼・同協会の後援を受け、真鍋島の遊歩道に設置する案内看板の製作を進めており、6月に現地調査、11月に設置を完了した。また「市議会かさおか」の表紙製作の依頼を受け、笠岡市議会から感謝状が贈呈された。笠岡コンソーシアムを推進するため、県立3校の学校間連携を充実させるべく計画を進めている。笠岡諸島が日本遺産に認定されたこともあり、日本遺産を通じた新たな取り組みを、笠岡商業高校を中心に動き始めたところである。

オープンスクールの参加中学生数
夏季 秋季
R05 113人 73人
R06 148人 96人
R07 128人 68人

親子ものづくり教室 中学校への出前授業

【III-2】進路指導・キャリア教育の推進 【評価B】

○ 就職内定先企業(採用担当者)による面談を実施。内定後の生徒の緩みが減少するとともに、個々の生徒に課題・指針(学生生活)を示していただいた。

○ 令和2年度よりキャリアパスポートを作成した。担任を中心に研修会を実施し、作成・活用について共通認識を図った。また、各学年で考査や学校行事・進路関係の行事等で活用を図り、キャリア教育の推進に努めた。

○ 就職希望者の民間企業一次内定率は94.9%であった。内容については昨年同様大手企業、有力企業等の内定があった。また、昨年に続き全員(縁故を除く)が工業系企業へ就職した。公務員は1名が合格した。(国土交通省)

5月10日に3年生保護者対象の進路説明会を実施した。夏休みには進学希望者とその保護者、また、本校に興味を持っている中学生とその保護者を対象に進学座談会を実施した。全学年に進路講演会、工場見学、その他OBや先輩の話を聞く会を計画するなどキャリア教育の推進に努めた。

○ 笠岡市と連携した1年生対象の企業説明会を1月に、山陽新聞社と連携した2年生対象の企業説明会を1月に校内で実施した。近隣企業の協力を仰ぎ、2年生全員のインターンシップを12月に実施した。

インターンシップ受入企業
88社 227名(在籍:80人)
受入企業95.6%、各社2~5名受入
約3倍受入体制確保

インターンシップへの参加者
R07 79名(46社)

内定者面談
R05 52名(65名)、44社(57社)
↓
R06 43名(57名)、40社(53社)
↓
R07 42名(56名)、37社(48社)

就職一次内定率
R05 95.4%
R06 98.2%
R07 94.9%

【III-3】学校開放や保護者・地域等との連携の推進

【地域との連携】
地域社会のニーズや保護者の期待に応え、地域との連携を密にして、よりいっそうの開かれた学校づくりを推進する。

【III-4】進路指導・キャリア教育の推進

再編整備PTでの新校の検討を進め、学習環境を有効に活用し、全ての教職員が自己の資質向上、専門性の深化に努め、生徒にとって魅力的な学校づくりを推進する。

【IV-1】ものづくり教育の推進 【評価A】

○ 専門的な知識・技能の習得には、体験的な学習の充実が重要だと考え、経済産業省や国土交通省の支援もあり、笠岡市観光協会、ロームワコー(株)、IYAG電子工業(株)、シャープ 福山レーザ(株)と連携協定を締結した。また、地元企業からの技術講習会の実施や連携協定を締結した福山大学でも1日体験入学を開催した。笠工テクノ工房を積極的に推進した。地域から依頼のあった物品の製作や補修活動を行っている。課題解決型学習(PBL)の先進事例となっている。

○ 電子機械科では、全国選抜高校生溶接技術競技会や高校生ものづくりコンテスト溶接部門中国地区大会に出場した。全日本高校ロボコン大会では、決勝レース直前の最終予選まで健闘することができた。

○ 電気情報科では、全国ソーラーコンテストで準優勝となった。JMCR中国地区予選でAdvanced・BASIC部門において全国大会出場、BASIC部門では、3年連続で準優勝となった。半導体企業におけるクリーンルームでの「笠工版デュアルシステム」を実施した。

○ 環境土木科では、中国地区測量技術競技大会水準測量の部で優勝に輝いた。第18回コンクリート甲子園(全国10校)への出場を果たした。

【IV-2】学習環境整備の推進 【評価B】

○ 事務室と連携して猛暑対策として、体育館内体育職員室と渡り廊下に設置している大型製氷機を新たに購入した。また、衛生管理の一環として、本館一階教職員用男子トイレの洋式化、本館2階男子トイレの修繕、電子機械科製図室の防水漏水修繕、普通教室のLED化に取り組んだ。

○ 体育館内にアクセスポイントを移設できるよう、業者に資材を依頼している。電子工作実習室2、電子計算機実習室2のアクセスポイント整備を予定している。自動制御実習室にプロジェクタ設置を予定している。

○ 本校独自の教職員研究助成金の申請により、電気情報科で10万円の助成を受け、仁科ロボコン出場に向けたロボット製作についての研究を進めた。また、岡山経済同友会、公益財団法人日本教育公務員弘済会 岡山支部より各10万円の助成を受け、トイドローンTelloを5台(周辺機器含む)、DJI Mini 3を1台(周辺機器含む)の購入をした。このドローンを活用して「放課後ドローン教室」を実施している。

○ 学習環境整備を推進するため、地元観光協会や半導体企業、福山大学との包括連携協定を締結した。体験的な学習の充実にも努めている。

【IV-3】ものづくり教育の推進

【魅力的な学校づくりの推進】
再編整備PTでの新校の検討を進め、学習環境を有効に活用し、全ての教職員が自己の資質向上、専門性の深化に努め、生徒にとって魅力的な学校づくりを推進する。

【IV-4】キーワード : 徹底

キーワード : 徹底